

## 平成30年度 【 学園研究費助成金&lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ミズノ ヒデオ  
氏名 水野 英雄

研究期間 平成30年度

研究課題名 日本への外航クルーズ客船の寄港促進と観光公害の防止に関する研究

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	水野 英雄	現代マネジメント学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

観光は宿泊、交通、飲食、土産等の関連する産業の裾野が広く、経済波及効果が大きい。そのため急増するインバウンドを東京や京都といったゴールデンルートから地方へ誘客することで地方創生を実現する期待されている。

インバウンドの増加に伴いクルーズ客船の寄港が急増している。クルーズ客船の大量の乗客の消費支出による経済波及効果は地域経済の振興に貢献する一方で、数時間程度の短い滞在時間に大量の観光客が押し寄せることで交通渋滞や観光施設・商業施設の混雑、廃棄物の処理といった「クルーズ公害」といわれる状況が生じている。「観光公害」である「クルーズ公害」を防ぎながら経済波及効果を大きくする方策が必要である。

## 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

クルーズ客船の寄港地となる要因は次の3点である。①地理的要因(歴史的要因):地理的に優位な地域に港が開港されており、中国大陸から近い、各地への中継地であることで九州各地への寄港が多い。②施設的要因(充実した受け入れ設備):クルーズ客船の巨大化によって受け入れのための岸壁や旅客ターミナル等の十分な施設があることと、数千人の乗客を円滑に乗下船させ、短時間でCIQを済ませて十分な観光時間を確保すること。③観光地的要因(魅力ある観光資源):寄港地での滞在時間が6時間から8時間程度と観光のための時間の制約が厳しく、片道で最大でも2時間程度の範囲に魅力ある観光地が必要である。

これらの条件に基づいて、クルーズ客船の寄港が急増している青森港、平良港(宮古島)、清水港、大阪港、横浜港にて現地調査を行った。(別途、マイアミ港とフォートローダーデール港でも調査を行った。)

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

クルーズ客船の寄港が急増している青森港、平良港（宮古島）、清水港、大阪港、横浜港にて①地理的要因（歴史的要因）、②施設的要因（充実した受け入れ設備）、③観光地的要因（魅力ある観光資源）の観点と、交通渋滞や観光施設・商業施設の混雑、廃棄物の処理といった「クルーズ公害」について現地調査を行った。それぞれの要因によって寄港の状況が異なること、例えば、③観光地的要因に関しては祭り等のイベントによって季節性があること、①地理的要因に関しては近隣港との補完的な関係、那覇港と石垣港や平良港（宮古島）、神戸港と大阪港、横浜港と東京港がマイアミ港とフォートローダーデール港のような関係となり地域として寄港を増やしていることや、インターポーティングによって背後地の市場の大きさも影響していることが示された。②施設的要因に関しては大阪港や清水港は既存の設備の活用で寄港を増加させていること、各港で施設の整備が急速に進められていること、クルーズ客船が巨大になっていることで追加的な整備が行われていることが示された。

また、経済波及効果についても比較を行った。特に、インバウンドが入口となる港のある地域ではなく他の地域の観光地へ移動してしまうことで経済波及効果は小さい上に負担だけが生じる、大量のバスが必要になるが地元の企業だけでは対応できないため他地域のバス会社の利益となる、といったことが起こっており、地元経済の振興につながるような工夫が必要になっていること、大都市では大量の乗客をうまく分散することが出来、クルーズ公害を防いでいることが示された。

これらの研究に基づいて、地方創生の観点から水野英雄（2018）「地方港湾への外航クルーズ客船の寄港による地方創生」『海事交通研究』第67集、経済波及効果の観点から水野英雄他4名（2019刊行予定）「四日市港への外航クルーズ客船の寄港による経済波及効果の推計」『港湾研究』第40号を公表し、一般向けに新聞に寄稿した。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①クルーズ客船	②インバウンド	③観光公害	④クルーズ公害
⑤地方創生	⑥経済波及効果	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

水野英雄（2018）「クルーズ市場のさらなる拡大のために必要なことーカボタージュ規制の緩和・撤廃の効果を中心にー」『月刊レジャー産業資料』2018年8月号、No.623、総合ユニコム、p.60～p.63

水野英雄（2018）「地方港湾への外航クルーズ客船の寄港による地方創生」『海事交通研究』第67集、2018年12月、山縣記念財団、p.3～p.14

水野英雄他4名（2019刊行予定）「四日市港への外航クルーズ客船の寄港による経済波及効果の推計」『港湾研究』第40号、日本港湾経済学会中部部会

水野英雄「外航クルーズ客船の経済波及効果ー寄港地の魅力向上が不可欠ー」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社平成30年5月21日、p.7

水野英雄「セントレア活用による「フライ&クルーズ」ークルーズ客船ハブ港として常滑港整備をー」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社平成30年10月5日、p.8

水野英雄「クルーズ客船のカボタージュ規制ー規制緩和による市場拡大への期待ー」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、平成31年1月15日、p.8

テレビ愛知『データで解析！サンデージャーナル』「この夏、人気上昇中！愛知の「クルーズ旅行」最新事情」平成30年7月8日放送